

TOPICS

理学図書館, 始動!

櫻井 博儀 (理学図書館長/物理学専攻教授)

2018年6月1日(金)に理学図書館がオープンしました。ぜひ、新しい理学図書館にお立ち寄りいただいて、ご活用ください。場所は、理学部1号館東棟の3・4階です。理学図書館は、各専攻の図書室を統合した図書館で、その構想が初めて議論されたのは、1982年2月の第一回理学部図書委員会です。36年もの長い年月を経て理学図書館が船出したこととなります。これまでの先生方、職員の方々のたゆまぬご尽力に対し、心より感謝申し上げます。

理学図書館には各専攻から集められた様々な図書・雑誌が並んでいます。図書館は、インターネットの空間とは異なって、実際のモノとの出会いがある実空間です。本やインクの香りにも満たされています。ふと手に取った図書や雑誌を広げてみてください。それは新たな知的冒険の始まりです。理学図書館には人と図書をつなぐ仕掛

けが施されています。語らいや議論を行うことができるラウンジやセミナー室、貴重な地図の閲覧コーナーもあります。もちろん勉強用の机も用意されています。所蔵している貴重図書の一部は、今夏のオープンキャンパスで公開されました。

理学図書館の蔵書数は、図書数で約22万冊、所蔵雑誌種数は4千強におよびます。今後、新規資料の受け入れだけでなく、学部生向けの教科書などを整備し、図書の充実を図っていく予定です。また、スケールメリットを活かして、理学系の純粋科学、学理の情報発信源として、新たな活動や役割を担っていきます。



理学図書館職員の方々と雑誌閲覧コーナーにて

女子中高生のためのイベント報告

藤井 通子 (男女共同参画委員/天文学専攻准教授)

理学部では毎年「女子中高生の未来」という女子中高生とその保護者・教員に向けたイベントを開催している。また、本部の男女共同参画室でも「家族でナットク!理系最前線」という同様のイベントを開催してきた。2018年はこの2つを同時開催し、午前は理系全体、午後は理学部に焦点を当てたイベントを行った。

午前の部では、本企画にご支援を頂いているJ&J株式会社ビジョンケアカンパニー代表取締役プレジデントの海老原育子さん(本学修士課程修了)に「女性は理系に進むとキャリアの可能性が倍になる!?!」というタイトルでご講演をいただいた。海老原さんからは「新しい世界を知ることで、やりたいことは変遷していく」、その中で「理系で学ぶ知識を活用して新しいものを生み出す力がひじょうに役に立つ」という

力強いメッセージをいただいた。

午後の講演では、生物学専攻の馬谷千恵助教に「魚を使って明らかにする脳の不思議」というタイトルでご自身の研究、キャリアについてお話ししていただいた。そのほかに、学生TAによるパネルディスカッション、ランチミーティング、TAによるオープンラボと、盛りだくさんのイベントであった。参加した女子中高生が目を輝かせて学生の話に聞き入る姿も見られた。彼女たちが今回のイベントで理系の魅力を感じ、将来、理系の道に進んでくれることを切に願う。講演者の方々はもちろん、学内・学外でご協力をいただいた多くの方に感謝する。



学生によるオープンラボ(研究紹介)の様子

理学部1号館東棟竣工式を開催

末武 伸往 (総務課長)

東 京大学大学院理学系研究科・理学部は2018年9月5日(水)、理学部1号館東棟の竣工式および記念祝賀会を開催した。

理学部1号館は、20年以上前に3期に分けた整備計画が立案され、1996年に第1期(西棟)が、2004年に第2期(中央棟)がそれぞれ完成し、このたびの第3期(東棟)をもってようやく1号館整備計画が完了した。

竣工式は同館の小柴ホールで行われ、武田洋幸理学系研究科長の式辞、福田裕穂理事・副学長の挨拶に続き、濱田純一前東京大学総長が祝辞を述べ、招待された来賓と学内関係者らが祝った。式典後には東棟の見学会が行われ、新設された研究室や各専

攻に分散していた図書室を統合し、新たに設置された理学図書館などを見てまわった。続いて小柴ホール前ホワイエで開催された祝賀会は、星野真弘副研究科長の挨拶に続き、笠原隆文教施設企画部参事官(技術担当)が祝辞を述べ、相原博昭大学執行役・副学長の乾杯で祝宴が始まり、終始和やかな歓談の場となった。



上：式辞を述べる武田洋幸研究科長
下：研究室見学(生物科学専攻 上村想太郎教授)

祝 2018年度秋季学位記授与式・卒業式

広報誌編集委員会

2 018年度の秋季学位記授与式・卒業式が2018年9月14日(金)に安田講堂で実施された。理学系研究科・理学部からは武田洋幸研究科長・学部長と、理学系研究科総代としてワリア・ネブリート・カウル(WALIA NEHPREET KAUR)さん(地球惑星科学専攻修士)、モタニーヤシャート・ビッチャプール(MOTANEYACHART Vitichaphol)さん(化学専攻博士)が壇上に立った。

また、小柴ホールにて博士課程および修士課程の学位記授与式が行われた。

卒業・修了されたみなさんに心からお祝いを申し上げます。みなさんが今後、世界の学術研究の進展に一層貢献することを期待いたします。

安田講堂での学位授与の様子。写真上はワリア・ネブリート・カウルさん。下は答辞を述べ、五神真総長(写真手前・後ろ姿)と握手を交わすモタニーヤシャート・ビッチャプールさん。(写真：尾関裕士)



武田洋幸研究科長(中央)と総代のモタニーヤシャート・ビッチャプールさん(左)とワリア・ネブリート・カウルさん(右)。



理学部ホームカミングデイ2018

大越 慎一 (広報室長/化学専攻教授)

2018年10月20日(土)に開催の東京大学ホームカミングデイの一環として、理学部では本学卒業生および小学生・保護者の方を対象としたイベント「理学のワンダーランド」を開催した。イベントは今年竣工の理学部1号館東棟2階講義室で行われ、126名の方の参加があった。

武田洋幸研究科長の挨拶に続き、物理学専攻の山本智教授による講演「地球と宇宙のお話」が行われた。オニヤンマを捕まえることに熱中していた小学生時代の思い出話で、参加者の心を上手に惹きつけながら物理学の宇宙のお話しへと進み、皆熱心に耳を傾けていた。生物科学専攻の川北篤教授による「花と昆

虫のお話」では、可憐なキキョウ科のツルニンジンの花の受粉にはどう猛なスズメバチが役に立っていることや、植物の生存には多くの努力があることなどの大変興味深い内容に、多くの参加者が驚いていたようだった。

質問の時間では、多くの小学生がストレートな質問を投げかけ、先生方がそのひとつひとつにユーモアを交えながら丁寧に回答をしていた。今回のイベントでも講演された先生方によって、参加した小学生らの「理学の芽」がさらに育ったように思う。講演いただいた先生方に、深く御礼申し上げます。

講演の様子(上:物理学専攻山本智教授,下:生物科学専攻川北篤教授)



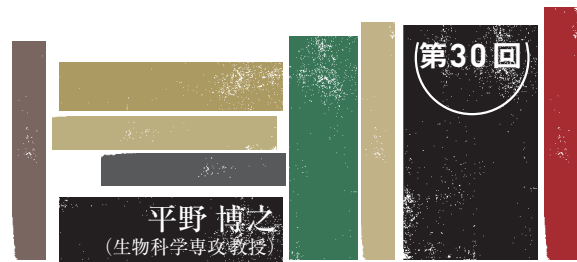
理学の本棚

「花の分子発生遺伝学

－遺伝子のはたらきによる花の形づくり」

受精卵というたった1個の細胞から、どのようにして複雑な体制をもつ生物が作られてくるのか、その仕組みを明らかにすることは、多くの人の興味をひく課題であろう。生物が形作られる仕組みを取り扱う分野が、「発生学」である。私が学生の頃までは、「発生学」は記載的な分野であった。しかし、現在では、多様な生物やさまざまな発生過程を対象として、遺伝子やタンパク質などの働きから発生の分子メカニズムを解明する、「分子発生遺伝学」の研究が進んでいる。

本書は、植物の代表的な器官である「花」が、どのような遺伝子の働きにより、どのようなメカニズムで作られてくるのか、その発生の制御機構を解説したものである。動物とは異なり、植物は成長しながら葉や花などの器官を作り続ける。この基礎となるのが頂端メリステム(分裂組織)である。本書では、植物の発生の根幹であるこのメリステムの機能とも関連させながら、花の発生機構を解説した。



花の分子発生遺伝学は著者2名が長年携わってきた研究分野であり、本書はそれをもとに生物学科の3年生を対象とする「植物発生学II」で行った講義を基盤としている。本書では、単なる発生学の知識や現在の到達点を解説するのみではなく、発生機構の解明がどのような研究によってもたらされてきたのか、その研究の内容や歴史に踏み込んで解説するように心がけた。植物発生学の研究の面白さや醍醐味も味わってもらえれば幸いである。



平野 博之、阿部 光知 (共著)
「花の分子発生遺伝学
－遺伝子のはたらきによる花の形づくり」
裳華房 (2018年出版)
ISBN 978-4-7853-5868-6